

潮音寺だより

第 297 号
平成 20 年 7 月
電話 052-671-4831
ファックス 052-671-4856

〈ホームページ〉<http://www.ne.jp/asahi/choonji/namo/>

〒456-0034 名古屋市熱田区伝馬 1-10-11



庭のアジサイに
孵ったばかりの
カマキリが
数知れず
ひしめき合っている

成虫になれるのは
いかほどであろうか

多くの同胞の
犠牲の上に
残ったものが
種を伝える
使命を負う

我が身として
貴い他の命
限りなき恩
お陰をいただいて
今がある

どこに
我があろうか

諸法無我しよぼうむが

多くの友を戦争で亡くされた方から、「生き残った自分の命は、自分だけのものではない。無駄に生きたのでは申し訳ない」ということを、しみじみと述懐じゆくわいされるのを聞かせていただいたことがあります。第二次世界大戦の犠牲者は、日本だけでも、兵士が三〇万人、民間人八〇万人といわれ、世界全体では、実に六〇〇〇万人にものぼるといわれています。このことを思うと、確かに、自分自身の今あるこの命、多くの方々の犠牲の上にあるのであって、戦後既に六〇年経つてはいますが、徒や疎かにできるものではありません。

話は換わりますが、先日、庭のアシサイに、孵ひったばかりのカマキリの子が、ひしめき合っていました。

た。二丁前にカマをもたげて、ちょこちょこ歩く姿は、なかなか可愛いものです。しかし、彼らには、幼くして、厳しい現実が待っています。カマキリも同様だと思っていますが、以前、スズムシを飼っていたことがあり、共食いをするんですね。その環境にあった数になるまで、弱い者が食われていくのです。そして、残った者が、自分たちの種を伝えるという使命を負うのです。カマキリの場合、交尾した後、良い卵を産むためでしょう、雌が雄を食べてしまつてつです。

ずいぶん残酷で、下等な生物だと思つかもありません。しかし、よくよく考えてみると、歴史的に見ても、殺人や戦争を繰り返して止まない人間は、カマキリとあまり変わらないのではないかと思え

てきます。恐ろしいことですが人間も生物である限り、遺伝子の中に共食いに相当するプログラムが組み込まれているのかもしれない。普段は休止しているプログラムですが、何かの条件がそろったとき、突然動き出すのでしよう、「まさかあの人が」ということをよく耳にいたします。ですから、我が身とて、縁があれば殺人さえも犯しうる存在であることを認識すべきであります。

それは人間の悲しい性けいといえましょうが、だからこそ、そこに宗教の必要性があるのだと思います。仏教の場合、信者が守るべき戒律『五戒』の第一番目に「殺すなかれ」があるのは、そついった意味あつてのことと思われまふ。

最近、自殺願望の若者による無

差別殺人が相次いでいます。「誰でもよかった」といつて殺されたら、たまったものではありません。ただ、加害者には、当然、罪の償いの意識を持ってもらわねばなりません。

んが、被害者の方々には、非業の最期を遂げたという無念の思いがあるには違いありませんが、「他の人たちを生かすために、命の布施をしたのだ」と、考えていたかどうかはできませんまいか。憤り・恨みを布施の心へと昇華させるのです。そして、被害を免れた我々としては「ひょっとして、自分であったかもしれないぬ事態、よくぞ代わって命の布施をして下さった」と、手を合わせるべきではないでしょうか。

私も、カマキリ同様、多くの同胞の命の布施を受けて生かされています。先の大戦の何千万もの

犠牲者ばかり、事故・犯罪による犠牲者ばかり、たまたま自分は、多くの先逝く方々の命の布施をいただいて、選ばれて生かされているのだとの自覚が大切です。

さらにいっさらば、我々人間は、毎日毎日の食事に、幾多の動植物の命の布施を受けて生きています。食前の「いただきます」、食後の「ごちそうさま」には、本来重い意味が込められているのです。ですから、自分の命は自分のものと思いがちですが、多くの命の布施に支えられてある命であって、けして自分のものとはいえないのです。

私も、自分ひとりで大きく偉くなったような気であるものです。今の自分があるというよりは、直接的、あるいは間接的に、目に見えるもの、見えないもの、さまざま

な縁、さまざまな恩をいただいている、こそであります。

『法句経』の二七九番に「すべての法は

わがものにはあらず」

と、かくのよう

智慧もて知らば

彼は そのくるしみを厭つべし

これ清浄に入るの道なり

と、あります。

これを「諸法無我」の教えといいます。すべてのものは縁によって成り立っており、しかも一つの縁だけではなく、無数の縁によって自分は生かされているのだという自覚の大切さ説いています。この智慧を持つことで、悩み多き娑婆世界の苦しみから解放されるのです。それは、慈悲心、菩薩の心を授かるということでもあります。

おまんこ

もちろん汁粉のことだが、関西ではつぶし餠の汁粉のことを指し、関東では、白玉餅などに濃い餠をかけたもの。

このことばは、釈迦がしばしば用いたという。たとえば、弟子が何かいいことをいったり、立派な行いをしたとき、「善哉善哉」と称賛したのだ。つまりは、善いと感じたものをほめたり、喜び祝う語でもある。梵語ではサードゥー。

ところがどうしてこれが、日本では食べ物の名前になったのか？伝説によると、ある信者が初めて小豆を煮た汁に餅を入れ、一休禅師に供したところ、禅師は大いにほめ「善哉善哉」といったとか。それがやがて、汁粉の呼び方になったといふのだが。

大阪の作家織田作之助の名作に

森繁久弥主演で映画にもなった『夫婦善哉』という作品があるが、さしずめ、これは「夫婦よきかな」とても訳せばいいのか？ そついえはあれば、一種の夫婦賛歌の物語であった。

雑記



▼阿弥陀堂寄進

京都本山の阿弥陀堂の改修工事に伴う寄進を、次の方々から新たにご応募いただきました。感謝申し上げます。

- ・吉戸照秋様 二万円(二〇)
- ・菊田 光様 二万円(二〇)
- ・伊藤ちか子様 二万円(二〇)

▼ネコ

去年生まれた外猫のうち、一匹

だけ生き残ったシマちゃん。親猫

は指一本触れさせてくれませんが、人なつこく愛嬌者で、参詣いだいた方々にもずいぶん可愛がっていただきました。

そのシマちゃん、とうとう内猫になりました。姉貴分のチイちゃんと室内運動会の毎日で、手を焼いておりますが、寝顔を見ていると許せてしまうから不思議です。

▼孫

七ヶ月になります。お陰さまで、すくすく育っております。



お母さん手作りの
ドーナツ
もんの
リュックが、実はも
う、ちよつときつい……(泣)



◆物干しのシャツと

奏でる土風鈴 沐魚